

平成 28 年度 第 1 回 鶴岡市立藤沢周平記念館運営委員会（会議概要）

○日 時 平成 28 年 6 月 23 日（木）午後 1 時 30 分～15 時 30 分

○会 場 荘内神社 参集殿

○審議事項 1 報告

(1) 平成 27 年度運営状況について

2 協議

(1) 藤沢周平没後 20 年特別企画展について

(2) 藤沢周平没後 20 年誌の作成について

3 その他

○出席者委員

遠藤展子、遠藤崇寿、鈴木文彦、栗原正哉、庄野音比古、犬塚幹士、高山邦雄、東山昭子、堀 司朗

○欠席委員 湯川豊

○市側出席職員

教育委員会教育長 加藤忍 教育委員会社会教育課長 本間明

教育委員会藤沢周平記念館長 鈴木晃 同館主査 三浦真紀 五十嵐恭子

同館専門員 進藤恵理也 同館嘱託学芸員 齋藤冬華

○その他出席者

穴澤亮（運営支援業務受託者）

○公開・非公開の別 非公開

○非公開の理由 顕彰する個人の情報を含むため

◇報告

(1) 平成 28 年度運営状況について

◆内容

平成 27 年度入館者、書籍等販売実績及びソフト事業実施状況について報告

〈意見など〉

・特に無し。

◇協議

(1) 藤沢周平没後 20 年特別企画展について

◆内容

○趣旨：藤沢周平氏の没後 20 年を迎えるに当たり、読み継がれる、藤沢氏の多様な作品世界の魅力を広く紹介する。

○会期案：平成 29 年 1 月 5 日（木）～平成 29 年 11 月 28 日（火）

○企画監修者案：鈴木文彦氏

○展示構成 資料により展示構成案を説明

○図録 ①制作数 2,000 部

②発行日 平成 29 年 1 月 5 日（木・会期初日）

③規格 既発行の図録と同様

④内容 展示内容の抄録、寄稿

○ミニギャラリー：藤沢周平原作・映画ポスター展

○関連イベント ①朗読会

②講演会

③館内朗読会

○広報

①ポスター・チラシ

②市広報・プレスリリース

以上を提案

〈意見など〉

- ・ 没後 20 年展、どういう内容にするかを話し合っ、あまりにも良い小説をたくさん書いているので、作品の本文を紹介するだけでなく、少し変化をつけて何かアピールする方法はないかと考えてみた。藤沢作品を他の方々はどう読んだのか、この人はこういう風に読んだ、とか、入館者が企画展を思い出すようなきっかけ的なこと、この人がこういう風に褒めているのなら読んでみようと、来館者が読むきっかけとなるような変化をつけた方がいいと思い、解説文・書評をプラスした。作業を進めるにあたって、良いと思うものが何作かあったり、この人の表現が良いなと思うのがあったが、抜き書きすると全部が全部上手くはまらないので、色んなところから探しているところだ。数も多く外せないものもあるので、前期後期に分けてと考えている。全作品を対象とすることから、常設展と企画展をどう差別化するかということも考えて、今回の企画を考えた。
- ・ 読み手が語る作品の魅力、とてもいいことだと思うが、一部だけ引用しても分からないので、どうしても引用が長くなりがちだ。図録ではしっかり引用した方が読んでもらえるので良いが、展示の場合は、字ばかりあると読んでくれないので工夫する必要がある。本当はよくないが、文章を削るとか、ポイントになる言葉の字体を変えるとか、考えてほしい。
- ・ 作品の選択だが、多様で多彩で幅広い色んな作品があるのだから、なるべく色んな作品からから持ってきたほうがよいのではないかな。
- ・ 文章についてだが、このままではなく、少し直した方が良いところがある。例えば「慎ましく男を慕う陰の女」なんかは、陰の組織の女頭領のことだが、作品を知らない人が読むと単に日陰の女と違った解釈をされてしまうので注意したほうがよい。
- ・ 全体の作品の選択で、観ている人が知っている作品を載せたほうが親近感が湧く。「たそがれ清兵衛」「花のあと」「小川の辺」など。
- ・ 素晴らしい構想だが、スペースが全然ない。それを考えたほうがよいのではないかな。
「20 年特別」ということを考えて、常設展示のスペースも一部使ってもよいのでは？色々考えたほうがよい。
- ・ 内容がすごく豊か。限定された中で、精一杯のものを見せようとする、非常に豊富すぎて目移りする。限られたスペースで、作品世界全てに浸るとなると大変だと思う。図

録を活用しながら展示を見て歩く、展示を見た人が必ず図録を買いたくなるような、工夫が仕掛けとしてできないか。年間通した行事でも「図録を読み合う会」や継続的に何かを取り組むとかができれば一つの財産になっていくのではないか。

- ・展示されている作品について願うのは、次の世代へ継承、次の世代へ受け継いでもらいたい作品であり、そこが藤沢文学の普遍性だと思っている、その普遍性を受け継いでいくには若い人への働きかけが必要な部分だと思う。管内の文化活動を行っている高校生に働きかけ、藤沢作品をどう読んだかを書いてもらい、荘内日報等で発信してもらい、若い人の捉え方と専門の方が書いたものを読み比べてみる機会が創出できればという思いもある。
- ・没後 20 年の特別な企画なので、展示物がニュースになるような、新たに発見されたメモや手帳が、ここに来れば見れるような特別感を出した方が良い。全体の展示の中で、片隅でもいいので現物が見られると展示物として魅力的になる。そして、地元のメディアに知らせれば記事にしてくれる。

◇協議結果◇

以上を参考にして、なお、展示内容を監修者と詰める。

(2) 藤沢周平没後 20 年誌の作成について

◆内容

○趣旨

藤沢周平氏の没後 20 年にあたり、記念誌を発行し、映像化された作品を中心に没後 20 年の歩みと藤沢作品の魅力を紹介する。

○名称

藤沢周平 映像の世界〈仮〉

○部数

6,000 部

○発行日

平成 29 年 1 月 5 日 (木)

○規格

P60 フルカラー A4 ムック本

○頒布価格

1,000 円前後

○監修

庄野音比古氏

○構成要素

- ・藤沢周平について
- ・作品紹介
- ・寄稿
- ・文庫本一覧

- ・海坂藩紹介
- ・年譜
- ・記念館紹介

以上を提案

〈意見など〉

- ・「ふつうが一番」も入れてもらいたい。石井ふく子先生からインタビューの内諾を得ている。「ふつうが一番」だけではなく、藤沢作品原作のドラマや舞台もやっていただいているので、これらも入れてもらいたい。
- ・誌面構成としては、全 60P のうち 30P くらいは映像化された作品の紹介。「海坂藩」の紹介のところには地図や食べ物の写真が 6P、あとは寄稿が 9P ある。全体的イメージはビジュアル的には映画化、ドラマ化された写真がものすごく綺麗に出ているかなというものを主体に作りたいというのが全体のねらい。部数については、記念館だけではなく、民間企画で進めている没後 20 年全国巡回展をやるところでも売るということなので、6000 部と部数が多くなっている。価格が 1,000 円なので、買いたいと思ってもらえるように本をめくった時に、この DVD を見たいとか、家に帰ってゆっくり読みたいとか、ユーザーに響くようなものを作ったほうがよいと思っている。こちらが発信したいと思うものを作るのではなく、悪く言えば読者に迎合したものを作っていくと思っている。
- ・普段は文学的な企画展を中心にやっていこうと思っているが、没後 20 年という機会なので、映像的な方にも触れられればと思って企画した。
- ・映像化された作品の構成は基本的に 2 ページ。

◇協議結果◇

以上を参考にして、今後も監修者と詰める。

(3) その他

- ・没後 20 年展、とても素晴らしい企画だと思う。最初、タイトルや主旨を見たときに常設展示と差別化するのが難しいと感じながら聞いていたが、読み手側から各界の人が先生の作品を読んで、どう感じているかというのを抜粋して来館者に提示してあげること、読み手側の感性みたいな部分が展示の中から読み取れるというのは、まさに企画展だからこそできるものになるんじゃないかなと思って、私自身見てみたいと思う。その辺を中心にデザイン案を考えていきたいと思う。自分が共感した部分はここだというように、一般読者の方の感性のどこを刺激したのかというのを、観に来た方がお互いに共有できる仕掛けがあれば興味がさらに湧くと思う。
- ・展示以外でも、もし考えてもらえる要素があるのなら、たとえば松本清張記念館の会報を整理して見てたら、中高生の読書感想文コンテストを毎年なのか？やっている。若い人たちに藤沢作品を読んでもらって、感想文を書いてもらって、それを選んで表彰するとか。5 周年の時にやった習字みたいなものをもっと広げてもらって練って、ニュース

になるような工夫をしてもらってどうにか若い人たちに読ませたい。若い世代の掘り起しになれば。

- 昨年、鶴岡中央高校の生徒さんから作品を読んでもらい、感想も添えて行った作品題名書道展は大変好評だったので、記念館だけでなく市民ロビーにも展示した。今年は中央高校だけじゃなく、田川地区全体に呼びかけてもらうようお願いしている。若い人たちの読者層を開拓していかないと、読み継がれていかない。読書感想文もいい方法なのでそこも考えていきたい。